ブラッセル日本人学校補習校　学校だより　№24　2026年11月18日　文責：校長　中川健志



ベゴニア

～「わかった」「できた」「来てよかった」の思いがあふれる補習校

ひびかせよう　日本のことば　日本のこころ　－　〇/〇（〇）は音読発表会　－





〇月〇日（〇）の音読発表会に向けて、各学年で練習が進んでいます。声の大きさや速さ、間の取り方を確かめながら、声をそろえて読む姿が見られました。

音読は、ただ文字を声に出すだけではありません。言葉のリズムや響きを感じ取り、内容や気持ちを理解してこそ、聞き手に伝わる読み方になります。日本語にふれる時間が限られている子どもたちにとって、みんなで日本語を響かせる経験は、とても貴重なものです。

本番まであと少し。ご家庭でもぜひ練習の聞き役になっていただければと思います。当日、子どもたちが練習の成果を発揮できるよう、温かい応援をよろしくお願いします。

大切にしたい礼儀やマナー　－脱いだ靴をそろえる習慣－




先日、音読発表の練習をしている体育館の横の廊下を歩いていると、脱いだ靴が壁に沿ってきちんと並べられていました。かかとをそろえて置かれた靴を見て、うれしい気持ちになりました。全校朝会では、靴をそろえる姿がずいぶん見られるようになってきましたが、学年の練習の場面でも自分たちでできていたことは、大きな成長だと感じています。

「はきものをそろえると心もそろう」という言葉があります。靴をそろえるのはほんの数秒のことですが、気持ちを整え、次に使う人を思いやる心にもつながります。靴のまま過ごすことの多いベルギーでは、意識しないとなかなか身につかない習慣かもしれません。靴をそろえ、心もそろえて、音読発表の練習にのぞんでほしいです。

補習校は、日本の言葉とともに、日本の礼儀やマナーにもふれる場です。あいさつや靴をそろえることなど、身近な習慣を学校とご家庭で一緒に大切にしていきたいと思います。

漢字の難問に挑戦！！　－　第2回補習校漢字検定　－



〇月〇日（〇）の授業後、第2回補習校漢字検定を実施しました。会場の教室は、鉛筆を走らせる音だけが響き、子どもたちは一問一問に真剣に向き合っていました。難しい問題にも最後まであきらめずに取り組む姿は、とても頼もしかったです。

漢字の習得には、目標を決めてくり返し練習し、実際に読んだり書いたりする中で使ってみることが大切です。難しい漢字がたくさん出てきますが、ぜひあきらめずに取り組んでほしいです。

次回の第3回補習校漢字検定は、〇月〇日（〇）に実施する予定です。みなさんの挑戦を待っています。

今後の予定

HP 上は非公開